

令和6年度 公立小松大学入学者選抜試験
学校推薦型選抜（一般推薦）試験問題

課 題 作 文

【国際文化交流学部】

国際文化交流学科

（注意事項）

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないでください。
- 2 問題用紙は本文1ページです。答案用紙は1枚です。
- 3 答案用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 答えはすべて答案用紙の指定のところに、縦書きで記入してください。
- 5 アルファベットや数字は、1マスに1字で記入してください。
- 6 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

以下の文章を読み、筆者の考えをまとめたうえで、それに対するあなたの意見を 800 字以内で書きなさい。

右肩上がりの人口増加が長く続いてきたために、人口減少がもたらす様々な困難については、中々、理解されない。しかし、日本のように人口減少が毎年続き、減少数が過去最高を更新し続け、そのスピードが加速してくると、徐々に生活実感として理解されてくるようだ。

実際、地域レベルでは自然動態の減少に人口移動の効果（若い人口の構造的流出により再生産年齢の人口が減少する一方、住民の半数近くを死亡リスクの高い高齢者が占める限界集落・限界自治体化が進む）が加わるため、そのスピードは全国より早い。シャッター商店街や廃屋の増加、地元高校・小中学校の統廃合、ガソリンスタンドの廃業、公共交通機関の廃止が進む。この結果、いわゆる「地方消滅」が誇張でも脅しでもない現実となることが、ようやく理解され始めている。実はヨーロッパやアメリカ、インド、中国でも、地域レベルでは同様の変化が進んでいるのだが、どこの国でも人口分布の中心は、人口減少がもっとも遅れる大都市地域にあるため、日本のように全国レベルの人口減少が始まらない限り、一般の理解は得られないようだ。

このため、国であれ地方自治体であれ、地域レベルの人口減少は、その地域の問題としてしか捉えられず、地域間の連帯や協力につながっていかないという問題がある。日本についていえば、日本の人口減少をいかに止めるか、また地方創生についていえば、地域の人口減少をいかに止めるか（あるいは日本の人口減少を止めるには、地域人口の減少を止めなければならない）という点に関心が集中している。このような人口減少の捉え方に立てば、地域間の連帯や協力より、むしろ地域間競争をいかに勝ち抜くかという生き残りゲームとなってしまう、結果的に、世界各国間で、あるいは国内の地方自治体間で、減少してゆく人口の奪い合いという、最終的な勝者がいない戦いが起きることになる。

しかし、この人口減少は時間差はあるものの、地球上のすべての国や地域に広がっていく。また、(中略)、これから直面する人口減少は歴史的な人口転換の帰結であり、この危機の克服には、国や地域の枠を超えたグローバルな連帯や協力が必要とされる。また、この人口減少を止めるには長期の試行錯誤が必要であり、人口減少を止めることよりも、人口減少とともに発生する様々な課題に速やかに対応することが求められる。

(出典：原俊彦『サピエンス減少——縮減する未来の課題を探る』岩波書店、2023 年、105～106 頁)